

一橋大学フェアレイバー研究教育センター連載⑯

## 大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋

—アメリカの大学のレイバーセンターとは何か—

**鈴木 玲** 法政大学大原社会問題研究所/**青野恵美子** 明治大学労働教育メディア研究センター  
**山崎精一** A.D.W.S., 東京清掃労働組合/**中島 醍** 千葉商科大学

### 4 修士課程教育に重点を置く

→マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター

質問：修士課程の授業は労働運動をめぐる理論的問題に加え、「組織化、団体交渉、戦略的企業研究、組合のリーダーシップのあり方」など実践的なスキルを学ぶそうであるが、そのような実践的なスキルをどのように授業で教えるのか。

フルタイムの修士課程（Residential Master's Degree Program）：授業の受講（オンライン）シップにより修士号（M.S. Degree）を取得できる。学生はフルタイム。

組合スタッフ向け修士課程（Union Leadership and Administration Program）：組合役員やスタッフが働きながら修士号を取得できるプログラムで、授業は夏と冬に集中して行なわれ、三年間で学位を取得できる。

ルース氏：組織化に関する授業では、組織化についての理論や歴史についての研究を学ぶ。

それらの予備知識をふまえ、具体的な組織化キヤンペーンの調査や組合活動家へのインタビュームにもとづいたリサーチ・ペーパーを作成する。

しかし、学生たちが実践的スキルを本格的に学ぶのは、フルタイムの修士課程の場合、一年目

と二年目の間で行なう組合などのインターンシップのときである。団体交渉の授業では、理

論を学ぶとともに、擬似団交（mock bargaining）を行なう。リーダーシップの授業は、現在開か

れていない。授業内容に関する課題は、理論的

なことを学びたい学生と応用的なことを学びた

い学生の要求のバランスをどのようにとるのか、

といふことである。

「マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター（University of Massachusetts Amherst Labor Center：一九六四年設立）」は、修士（マスター）レベル大学院教育、調査研究、労働者や労働運動へのサービス提供のための統合プログラムである。レイバーセンター専任の教員は四人（三人の教授・准教授一人のLabor Extensionコーディネーター）で、その他数多くの他学部の教員がセンターに非専任で属している。同レイバーセンターは、四つ（大きく分けると三つ）のプログラムを提供しているが、現在は修士課程のプログラムを重視している。

### (2) 聞き取り

筆者は、二〇〇八年八月一日にボストンでス

質問：修士課程の授業で教える理論について、従来の労使関係論的（制度的）枠組みと、より

テファニー・ルース（Stephanie Luce）マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター准教授に対して聞き取りを行なった。以下は、その内容を整理したものである。

批判的（マルクス主義的）な理論枠組みをどのよう組み合わせて教えているのか。ルース氏：どのような理論的枠組みを教えるのかについては、それぞれの教員に任せている。多くの教員が批判的なスタンスをとるが、制度的、批判的枠組みの両方を教えている。アメリカの大学の労使関係プログラムでは、通常

1 大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋

—アメリカの大学のレイバーセンターとは何か

2 ロサンゼルスの二つのレイバーセンター

—UCLAレイバーセンターとロサンゼルス職業技術大学レイバーセンター

3 コミュニティ・カレッジで地域に根ねた社会人むけ労働教育

—サンノゼ市立大学、サンフランシスコ市立大学、ロサンゼルス・コミュニティ・カレッジ

4 修士課程教育に重点を置く（以下、本号）

—マサチューセッツ大学アーバイン校レイバーセンター

5 映像を利用した労働教育の実践

—ハワイ大学ウエストオアフ校労働教育研究センター

6 ナショナルセンターが設立した労働大学

—全米労働大学

7 アメリカ最大の労働史資料館

—ウェイン州立大学ウォルター・P・ルーサー図書館

青野恵美子（明治大学労働教育メディア研究センター）

鈴木 玲（法政大学大原社会問題研究所）

小畠精武（全日本自治団体労働組合）  
(以上、一六九〇号)

労使関係論が中心的な枠組みである。他方、アマースト校レイバーセンターの教員はその枠組みからからは距離を置き、労働問題をマルクス主義理論、フェミニスト理論、エスニック関係論の視点からあつかう。

質問：労働リサーチプログラム（Labor Re-

search Program）について、いくつのプロジェクトが動いているのか、組合から委託された研究は、質的（事例分析）なか量的（数量的分析）なのか。

ルース氏：組合からの委託研究の内容は様々である。しかしながら重要な問題は、アマースト校レイバーセンターの研究体制が弱体化していることである。大学当局からの攻撃により、レイバーセンターの教員・スタッフが削減されたためである。以前、レイバーセンターは多くの小規模のプロジェクトを行なっていたが、少額の委託費（三〇〇〇ドル）にかかわらず、調査研究に多くの労力を費やしていた。それができたのは、大学がリサーチアシスタントの賃金を払っていたからである。現在では、リサーチアシスタントの費用は、組合負担となり多くの組合がそのような費用を支払えない。その結果、組合から委託されるリサーチの数は大幅に減少した。三〇〇〇ドルでは、もはやコストがカバーできなくなつたので、その額での委託を断つている。

リサーチプロジェクトのほとんどが、サーベイか事例研究である。企業調査（corporate research）や団体交渉のための調査、ある特定の問題に関する組合員の意識調査などである。統計は単純な処理にとどまる。組合自身が、複雑な統計処理を求めていない。レイバーセンタに研究を委託する組合は、看護師組合（Massachusetts Nurses' Association）、公益事業体労組

(Utility Workers) など主にマサチューセッツ州の組合である。リソースやスタッフをあまりもたない小さい組合がレイバーセンターに調査を要請して接触してくる場合もある。全米食品商業労働者組合( UFCW )、全米鉄鋼労働組合( U.S.W.A.) など全国組織からの研究委託もあった。

全米サービス従業員労働組合( SEIU )の委託がかつてはあつたが、今はあまりない。組合からの委託は、「アドホック」的に起き、レイバーセンター側から組合にリサーチプロジェクトを持ちかけてはいない。

**質問**・エクステンションについて、コースの内容などについて説明してほしい。

ルース氏・マサチューセッツ大学の各キャンパスは、エクステンションプログラムとスタッフをもつてている。エクステンションのスタッフはキャンパスを超えて協力し、常に会合をもつている。

各キャンパスのエクステンションプログラムは、それぞれの地域の組合とつながりをもつてている。たとえば、アマースト校レイバーセンターのエクステンションは、アマーストのローカル組合に対し小規模なトレーニングプログラムを提供する。トレーニングの内容は、ローカル組合の具体的な要求に沿つたものである。ただし、各キャンパスのエクステンションが合同で州レベルのトレーニングプログラムを実施することもある（このプログラムには州政府から多

少の援助がでている）。しかし、労働運動が弱体化するにつれ、組合の財政が悪化し、エクステンションの需要は少なくなっているのが現状である。

ルース氏はレイバーセンターの修士課程について、さらにつぎの追加コメントをした。

マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンターは、実践的な側面を取り入れているものの、修士課程が中心のプログラムである。そのため、かなり厳格なアカデミックな基準を維持しようと努力している。同レイバーセンターは、労働側の立場から教育をするアメリカで唯一の修士課程である。しかし、他の大学の労使関係プログラムと違い、批判的なスタンスにたつた授業をするため、大学の財政的支援を得るために厳しい闘いを強いられている。

アマースト校レイバーセンターの目標は、修士課程を通じて労働組合の現状を批判的にみる組合スタッフの層を形成していくことである。

## 5 映像を利用した労働教育の実践 —ハワイ大学ウエストオアフ校労働教育研究センター

【参考ウェブサイト】  
マサチューセッツ大学アマースト校レイバーセンター  
<http://www.umass.edu/lrc/>

組合との接触・経験をもっていない。教員が期待する知識と学生の実際の知識の間にギャップがあるため、学士（BA）レベルでレイバースタディの課程をつくる必要があると感じる。

組合スタッフ向け修士課程は、教えるほうも有意義に感じる。なぜなら、プログラムは集中して密度高く、学生は組合経験をもち、強い学習意欲をもっているからである。このプログラムの修了率はフルタイムの修士課程よりも低い。しかし、このプログラムは、異なる組合で働くスタッフ同士がお互いに知り合い、意見を交換する機会を提供するというメリットをもつ。

組合との接觸・経験をもっていない。教員が期待する知識と学生の実際の知識の間にギャップがあるため、学士（BA）レベルでレイバースタディの課程をつくる必要があると感じる。

組合スタッフ向け修士課程は、教えるほうも有意義に感じる。なぜなら、プログラムは集中して密度高く、学生は組合経験をもち、強い学習意欲をもっているからである。このプログラムの修了率はフルタイムの修士課程よりも低い。しかし、このプログラムは、異なる組合で働くスタッフ同士がお互いに知り合い、意見を交換する機会を提供するというメリットをもつ。

組合との接觸・経験をもっていない。教員が期待する知識と学生の実際の知識の間にギャップがあるため、学士（BA）レベルでレイバースタディの課程をつくる必要があると感じる。

組合スタッフ向け修士課程は、教えるほうも有意義に感じる。なぜなら、プログラムは集中して密度高く、学生は組合経験をもち、強い学習意欲をもっているからである。このプログラムの修了率はフルタイムの修士課程よりも低い。しかし、このプログラムは、異なる組合で働くスタッフ同士がお互いに知り合い、意見を交換する機会を提供するというメリットをもつ。

係センター (Industrial Relations Center) があるが、労働教育研究センターはそれとは違つて、労働者のための教育研究機関としての立場を明確にする。

筆者が、全米に数多くあるレイバーセンターのなかから同センターに関心をもつたのは、一人の専任スタッフの存在からである。同センターの専任スタッフは、所長のほかに労働教育専門家と労働経済専門家、公共テレビ放送番組『米とバラ (Rice & Roses)』のプロデューサーの四人である。スタッフのなかに、なぜ映像制作者が入っているのか——この点が筆者の疑問であり、同時に同センターの特徴といえる。

### (1) センターの五つの目的と六つのサービス

最初に、同センターの五つの目的と六つのサービスについて紹介する。

① 労働者と彼らの組織に、労働教育を提供する。

② 一般の人々に、労働に関する教育を提供する。

③ 労働教育プログラムの開発にあたり、ハワイ州教育局を支援しアドバイスする。

④ 労働研究プログラムの開発にあたり、ハワイ大学を支援しアドバイスする。

⑤ 州の労働教育問題のための情報センターとなる。

さらに六つのサービスは、

① ウェブサイトでの最新情報の提供・授業内容やビデオコレクション、州・連邦労働法、組合や他の労働調査のサイトへのリンク

② ニューズレターの発行・主に最新の判例や労働政策や問題についての掲載

③ 視聴覚図書館・団体交渉や労使関係に関する数百のフィルムやビデオの提供

④ 労働関係の図書館  
出版活動

⑥ 公共テレビ放送番組『Rice & Roses』の制作・内容は、地域の労働運動のレポートや歴史、最新の労働問題について

右記の活動を支えているのは、先に述べた四人の専任スタッフである。さらにハワイ大学学長により任命された一五名の州の労働組合の代表によつて「労働教育アドバイザー会議」が構成され、彼らは同センターの活動やプログラムについてアドバイスを行なつてゐる。

同センターがもつとも力を入れる労働教育について、二〇〇九年春のプログラムを紹介しよう。開催する講座は、「リーダーシップの効果的トレーニング」「労働協約の交渉の仕方」「苦情処理入門」「交渉の準備」など九講座で、これら講座に単位や資格はない。時間帯は午前中に開催する一講座を除いて、午後六時半からスタートし、一時間から二時間半となつてゐる。一講座は四回から八回で完結し、受講料は一回

○ドルだが、争議中の労働者は免除される。現在、『Rice & Roses』の作品は、ウェブサイトのピート・ライブラリーでタイトル一覧と

(2) 映像作品シリーズ『Rice & Roses』の誕生

同センターが設立された六年前の一九七〇年、ハワイの労働組合の代表らによる、特別な諮問委員会が開かれた。翌年からレギュラー番組として一六年間続いた公共テレビ放送番組『Rice & Roses』の諮問委員会である。番組はハワイの労働運動をテーマに毎週放映され、制作には当時のハワイ大学社会人教育・地域サービス学部が協力した。

番組シリーズのタイトルとなつた『Rice & Roses』は、全米港湾労働組合 (International Longshore and Warehouse Union) の当時の秘書長、ディヴィッド・トンプソン (David Thompson) が世界産業労働者組合 (Industrial Workers of the World) の有名な詩『パンとバラ (Bread and Roses)』を読み上げたときに思つていたところ。

一九八一年から一九八九年まで、同番組の制作と司会を務めたクリス・コニーベア (Chris Connybeare) は、一九九五年に同センターの専任スタッフになつてゐる。レギュラーパン組と一緒に引き継がれていく。

### (3) 労働運動の歴史をつなぐ

現在、『Rice & Roses』の作品は、ウェブサイトのピート・ライブラリーでタイトル一覧と

解説を読む」とがやめる。おた作品の販売と貸出も行なつてゐる。『Rice & Roses』の作品の多くは、ハワイの労働運動の歴史を描いてゐる。

こうした映像作品は、同センターの講座や高校・大学の授業で映像教材として活用され、若い世代に労働運動の歴史を引き継いでいる。

同センターが制作した最新の作品のタイトルは『ジャック・ホール 彼の人生と時代 (JACK HALL: HIS LIFE AND TIMES)』(1100八年・六〇分)である。ハワイの労働運動においてもっとも偉大なリーダーのひとりであるジャック・ホールを紹介する内容だ。1100八年一月に初めて公共テレビで放映され、最近では1100九年一月にも再放送されている。ウェブサイトでは、作品の一部を視聴することができる。

また、「ハワイ港湾大ストライキ (THE GREAT HAWAII DOCK STRIKE)」(一九九九年・110分) や「一九四六年 ハワイ砂糖大ストライキ (1946 : THE GREAT HAWAII SUGAR STRIKE)」(一九九六年・110分)、『肌の色は輝く兄弟 (BROTHERS UNDER THE SKIN)』(一九八六年・110分)は、ウェブサイトで作品のすべてを視聴することができる。これらの作品の制作費として、州の予算のほか、ハワイ労働史評議会 (Hawaii Labor Heritage Council) やハワイコムニティ財団 (Hawaii Community Foundation) などのが助成金が利用されてゐる。

#### (4) 様々な教材づくり

同センターは、歴史をテーマとする映像作品以外にも、安全衛生や苦情処理、経済問題、労働法、ストライキなどに関するビデオを収集し、ビデオライブラリーとして保管している。』ケ

ストライキンジニアード解説する作品『労働争議』ケット 合法的ピケットを組織する (LABOR DISPUTE PICKETING : ORGANIZING A LAW-FUL PICKET)』(1100六年・110分)はセンターで制作され、教材として活用されている。

『eLibrary』から読むことができる。実際のセンターの資料室には、所狭しと文献や資料が並ぶ。そのすき間に、かつて砂糖農園で働くされたいた移民労働者たちの番号プレートが保存されていた。労働者が名前でなく番号で呼ばれ、過酷な労働に耐えていた時代のものだ。工藤夕貴主演の映画『ピクチャーブライム (PICTURE BRIDE)』(一九九五年・Miramax Films・九五分)に当時の労働の様子が描かれていて、講座ではない映画の一部シーンも、教材として活用してゐるところ。

労働組合の役割を広く一般の人々に伝へようとする活動は、様々な教材づくりとともに、同センターによって続けられてゐる。

ハワイ大学ハスコア校労働教育研究センター  
<http://clear.uhwo.hawaii.edu/>

【Rice & Roses】 ショットオーバイブルー

<http://clear.uhwo.hawaii.edu/riceroses.html>  
eLibrary

<http://homepages.uhwo.hawaii.edu/~clear/e-l library.html>

(1) 本稿は、1100八年五月八日～11月118日に行なった同センターのウイリアム・ピューリット (William Purlette) 所長への聞き取りと、11月18日の回センターの見学、入手した同センター資料やウェブサイト情報にもとづき執筆した。

(2) 公共テレビ放送とは、ハワイ州議会が一九六五年に設立した公共放送サービス・ハワイ (Public Broadcasting Service Hawaii) を指す。

(3) 同様の取組みを紹介しよう。歴史ショットオ「黄金の大地と労働手 (Golden Lands, Working Hands)」は、110世紀のカリフォルニア労働運動史をまとめた三時間の大作である。組合員や高校・大学の学生が研修や授業で使いやすさように、全体の作品が10パートに分かれている。このビデオを作・企画したのは「カリフォルニア教員連合 (California Federation of Teachers)」の「学校における労働委員会 (Labor in the schools Committee)」である。完成後、カリフォルニアのすべての公立高校に無料で配布された。圧倒的多数の労働者が組合にコンタクトしていない現実のなかで、同ビデオは学生たちに労働運動の存在を知らせる貴重な

#### 【参考ウェブサイト】

教材といえるだけ。

<http://www.cft.org/gjwh/index.html>

## 6 ナショナルセンターが設立した 労働大学—全米労働大学

「全米労働大学 (National Labor College)」を大学でのレイバーセンターに含めるのは難点がある。というのは他のレイバーセンターのように労働研究あるいは労働教育のために大学が作った組織ではない。アメリカのナショナル・センターである AFL-CIO が労働組合活動家の教育のために作った組織が大学に発展したものだからである。全米労働大学は労働組合が作った大学という点でユニークな存在であり、その組織のあり方を理解するためにはその歴史を知るのが一番である。

### (1) 歴史

一九六九年、AFL-CIO 初代会長のジョージ・ミニーは労働組合活動家の教育機関を設立することを提案し、首都ワシントンに近いメリーランド州シルバー・スプリングに広大な敷地を求め、一九七四年に「ジョージ・ミニー労働研究センター (George Meany Center for Labor Studies)」が設立された。一九八一年には公文書館を併設し、AFL-CIO や各労組の公文書を保存している。このジョージ・ミニー

一・センターや最大の特徴は組合員が働き、活動しながら労働研究の学士号を取ることが可能なコースが設けられていることである。一九九七年に始まりアンティオーケ大学との提携で運営されている。さらに一九九九年にはボルティモア大学との提携により修士コースも設けられた。二〇〇四年には大学としての公式の認定を受け、名称を全米労働大学に変更した。

### (2) 教育内容

一週間以内の短期コースで組合運動の様々な専門的・技術的課題ごとに七十のコースが用意されている。組合員が自由に受講して技能向上を図ることができるし、全米労働大学の学士コースの単位としても取得できる。

#### ・組合技術コース

・労働研究の学士コース  
・労働研究の六つの専攻がある。

労働研究、労働者教育、労働運動史、労働の政治経済学、組合指導部育成と組合運営、労働安全衛生

このコースを履修するためには一学期に一回一週間全米労働大学での宿泊授業に参加しなければならない。

#### ・公開学習コース

これは最近始められたインターネット上のオンライン独習コースである。パソコン技術、メディア技術を含む様々な分野について誰でもが学べる無料のコースである。

#### ・組合技術コース

これは最近始められたインターネット上のオンライン独習コースである。パソコン技術、メディア技術を含む様々な分野について誰でもが学べる無料のコースである。

#### ・その他

これ以外にも AFL-CIO や各産別組合と共同して様々な教育が用意されている。組織化、労働安全衛生などの課題別のコース、建設産業、鉄道産業などの産業別コースなどである。また各組合からの要請により、その組合の組合員・指導者の教育コースも隨時設けている。

### (3) まとめ

全米労働大学は労働組合が設立した組合員・労働者のための高等教育機関である。六万坪近い敷地に宿泊施設も持ち、一五人の専任教官があり、毎年数千人の組合員が教育を受けている。日米の労働教育の水準の差を象徴する組織であ

る。

**【参考ウェブサイト】**

全米労働大学

<http://www.georgemeany.org/>

## 7 アメリカ最大の労働史資料館

—ウエイン州立大学ウォルター・P・ルーサー図書館

「ウォルター・P・ルーサー図書館 (Walter P. Reuther Library of Labor and Urban Affairs)」は、アメリカ北東部のミシガン州最大の都市デトロイトにあるウエイン州立大学に設置されており、労働史関連資料図書館としてはアメリカ最大のものである。本図書館は一九六八年に、既存の小規模な労働資料室を引き継ぎ、全米自動車労組 (UAW) の四〇〇万ドルの寄付を資金に設立された。図書館の名前は、一九四六年にUAWの会長となり、一九三〇年代から戦後期にかけてのアメリカ労働運動を代表する活動家であつたウォルター・P・ルーサーから取つたものである（当初は、本人が拒んでいたが一九七〇年の彼の飛行機事故での死後、この名称となつた）。

ルーサー図書館の特徴は大きく三つに分けられよう。第一の最大の特徴はやはり、多くの労働運動関係の組合の資料を所蔵していることであろう。設立の経緯からもわかるように当然な

がら、UAWとウォルター・ルーサーに関する資料を多く所有している。UAWについては、本部各部門や歴代会長、数多くの支部、関係者や関係諸団体の文書、新聞など網羅的な資料保管所となっている。現在ウェブサイト上では、ルーサーの誕生一〇〇周年として、多くの演説テキストや写真が公開されている。こうした写真や演説は年代別に検索することができている。さらに本図書館は、UAWも含め、全米サービス従業員組合 (SEIU)、アメリカ加州郡自治体従業員組合連合 (A F S C M E)、全米農業労働者組合 (U F W) などの一〇の労組の公的な資料保管所となっている。一九〇〇八年のニューヨークでは、一九〇〇五年にアメリカ労働総同盟別組合会議 (A F L — C I O) から分裂したナショナルセンターの「勝利のための変革連合」(Change to Win) の歴史的資料の公的な保管庫となつたことが伝えられている。また、組合本部だけではなくミシガン州内の支部や活動家個人の文書、組合機関誌、大会議事録、パンフレット、労働教育資料なども多く所蔵している。労組資料以外にも、様々な社会運動の資料も所蔵しており、さらに個人文書の数も一八〇〇にのぼっている。資料全体の量は、箱の長さとして表現されるが、直線で七万五〇〇〇フィート（約二三キロメートル）になり、きわめて膨大である。ただ、毎年出版されるニュースレターでは毎号、主な資料をいくつか紹介しており、ウェブサイトでも資料目録(Finding aids)

を参照することができるようになっている。

第二にルーサー図書館は、文書以外の写真資料や、インタビューなどのオーラル資料、映像資料なども充実している点があげられる。写真是約二〇〇万点（一〇〇万点が労働問題で、一〇〇万がデトロイト市関係）、労働に関する映像は約二万点を所有している。その中には、一九三七年五月、デトロイト市にあるフォード社のルージュ工場において、組織化活動を行なつていたルーサーらUAWに対して、フォード社が雇つた警備員が暴行を加えた際にとられた写真も存在する。これは、アメリカ労働運動史ではあわめて有名な「歩道橋での乱闘」(the Battle of the overpass) と呼ばれるものであり、筆者が二〇〇六年に訪れた際には、写真室において見せてもらつた。この写真は見られないが、写真資料の一部は、ウェブサイト上に公開されており、デトロイト市関係の写真や映像も、一部「Virtual Motor City」としてウェブサイト上で閲覧可能である。

第三の特徴は、図書館でありながら、教育プログラムや展示といった対外活動を行なつていることであろう。図書館の一つの役割として、アメリカ労働運動についての教育を地域レベルから国際レベルまで、広い視野で行なうことを探している。教育においては、主に初等・中等教育の指導者用プログラムを有しており、図書館の資料を用いて参加型手法で、生徒の調査手法、発表の手法などを学ぶ内容となつてている。

また、展示においては、図書館での展示の他に、出張展示も行なつており、筆者が訪れた二〇〇六年は、世界産業労働者組合（IWW）の展示を行なつていた。

ルーサー図書館は、資料の所蔵だけでなく、その公開や対外活動にも積極的に取り組んでおり、ウェブサイトの充実という面にもその意図をうかがい知ることができよう。デトロイトまで訪問することはそう簡単ではないが、本図書館のウェブサイトで様々な写真や映像資料を見るだけでもアメリカ労働運動の歴史の雰囲気を味わうことができると思われる。

【参考ウェブサイト】

ウォルター・P・ルーサー図書館

<http://www.reuther.wayne.edu/>

ウォルター・ルーサーの特集ページ

<http://reuther100.wayne.edu/>

図書館ニュースレター関連ページ

<http://www.reuther.wayne.edu/news>

(すずき あきひ)  
(あおの えみり)  
(やまとせ せいじか)  
(なかじま じょう)

好みたちを待っている  
社会や会社や仕事は  
今どうなつているのでしょうか。  
フリーター、格差、成果主義、  
ワーキングプア：  
「働くルール」と一緒に  
考えませんか。

# 好きな仕事を続けるために！

(仕事につくとき、仕事をするとき、辞めるとき)  
知っておきたい32のルール

# Work Rule 15歳の最新刊！ ワークルール

道幸哲也 / 著

北海道大学教授、北海道労働委員会会長代理、  
北海道地方最低賃金審議会会長、日本労働法学会元代表理事

定価 1,365 円 (税込)

A5 判 / 140 ページ

ISBN 978-4-8451-1021-6

<http://www.junposha.co.jp>

〒112-0015 東京都文京区自白台 2-14-13  
Tel : 03-3943-9911 Fax : 03-3943-8396

旬報社